研究課題名	急性胆のう炎における至適な抗生剤開始タイミングの検討
研究期間	倫理委員会承認日 から 2026年03月31日 まで
研究の概要	当院にて急性胆のう炎に対して胆嚢摘出術を実施された患者のデータを後方視的に検討し、抗生剤開始の至適なタイミングを検討します。
研究の背景・目的	<p>急性胆のう炎は緊急手術を必要とする外科疾患であります。全身治療として抗生剤投与が行われます。診断後、可及的速やかな抗生剤開始が望ましいと推察されますが、胆汁培養の陽性率向上の観点からは執刀直前が望ましいという意見もあります。実際、予定手術においては執刀開始 1 時間以内の抗生剤投与が術後の創感染予防に貢献するとして周知されています。</p> <p>急性胆のう炎の治療において一刻も早い抗生剤投与が望ましいのか、それとも執刀直前が望ましいのかを比較検討した研究はなく、本研究を企図するに至りました。</p>
研究の対象	<p>2015年5月から2024年4月までの間に急性胆のう炎の診断で初回入院中に胆のう摘出手術を行われた方を対象としております。</p> <p>なお、手術前に経皮的・経内視鏡的胆汁ドレナージを施行された方は対象外としています。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	上記患者の電子カルテから得られるデータ（年齢、性別、胆のう炎の重症度、Pitt Bacteremia Score、術式、開腹移行の有無、出血量、輸血の有無、入院期間、術前血液検査結果、術後合併症の有無、重症度、発生日時、抗生剤の種類、開始時間、投与期間、胆汁培養の採取の有無、血液培養の採取の有無、培養結果、胆嚢の病理結果）
研究方法	後方視的に手術優先（S）群と抗生剤優先（A）群に酒、術後合併症の発生割合、胆汁培養の陽性率などの治療成績を統計学的に解析し関連を評価します。
研究における医学倫理的配慮	<p>本研究データからは患者さん本人を直接特定できる情報（お名前など）を削除し匿名化しますので患者さんを特定することはできません。</p> <p>また、この研究成果については、学会や学術雑誌などで発表する場合がありますが、その場合でも、上記のとおり匿名化しておりますので、患者さんのプライバシーは守られます。</p>
研究の利用範囲	学会発表や学術誌に本研究結果を報告いたします。
研究組織	公立西知多総合病院
研究責任者	公立西知多総合病院 外科 医長 柴田淳平
問い合わせ先	〒477-8522 愛知県東海市中ノ池3丁目1番地の1 TEL：0562-33-5500
当院担当者	公立西知多総合病院 外科 柴田 淳平